

# 第 2 章

## 課題研究

# 1 課題研究について

## (1) テーマと目的

### テーマ「キャリア教育における協同学習を活用した授業実践」

卒業後の生徒が直面する可能性が高い課題解決を図るため、意図的に協同で学習を行う場面を取り入れた授業づくりを通して、課題解決へ向けた指導法を検討する。また授業者の授業力の向上も併せて研究の目的とする。

涌井（2014）によると、「協同学習を成功させるためのポイント」として以下の内容が挙げられる。

- ・ 互恵的な相互依存性がある。
- ・ 対面的なやりとりの機会がある。
- ・ 個人の責任があり、明確である。
- ・ ソーシャルスキルや協同・協働スキルが教えられ、頻繁に活用しなければならない。
- ・ チームのふりかえりを行う。

このようなポイントを含めた学習を、どのような目的を持ち、どのような方法で行い、どのような結果を得ることができたのかを、授業実践を通してふりかえりをしながら、本校としての協同学習を取り入れた授業の成果をまとめる。

なお、「ふりかえり」は、授業研究に基づいた協同学習の授業改善を図る上で重要なキーワードであり、授業者の実践力の向上も併せて、本研究の目的とするため、この表現を用いることとする。

## (2) 仮説

意図的に協同学習を含んだ授業に取り組むことで、生徒が自らコミュニケーションを取りながら、課題を解決する力をつけ、キャリア発達を進めることができるのではないかと仮定する。

## (3) 研究の方法

### ① 1年次の日程

「1年次～協同学習の定義を知り、全員で協同学習実践を含めた授業を行う」

1年次の具体的推進日程は、表2のとおりである。

表2 課題研究1年次具体的推進日程

| 月                        | 日  | 曜 | 回 | 時 間         | 内 容                                   | 場 所      |
|--------------------------|----|---|---|-------------|---------------------------------------|----------|
| 4                        | 24 | 金 | 1 | 15：00～15：50 | 全体研修①「第7次研究全体提案」                      | 視聴覚室     |
| 6                        | 5  | 金 | 2 | 14：00～15：30 | 全体研修②「第7次研究課題研究・プロジェクト研究提案」「協同学習について」 | 視聴覚室     |
| 6                        | 25 | 金 | 3 | 14：00～15：00 | 研究日① 学年グループ別「どの授業で授業研究をするか」           | 学年グループごと |
| 7月13日（月）～11月30日（月）全員授業公開 |    |   |   |             |                                       |          |
| 7                        | 30 | 木 | 4 | 10：00～14：45 | 特別支援教育研修会                             | 体育館      |

|                                   |    |   |   |                             |                            |          |
|-----------------------------------|----|---|---|-----------------------------|----------------------------|----------|
| 11                                | 25 | 金 | 5 | 14：00～15：00                 | 研究日② 学年グループ別「細案授業研究指導案づくり」 | 学年グループごと |
| 12                                |    |   | 6 | 校内研究授業月間（各学年1本ずつ）<br>授業後協議会 |                            |          |
| 12月18日（月）課題研究1年次アンケート配布。          |    |   |   |                             |                            |          |
| 1月18日（月）課題研究1年次アンケート〆切            |    |   |   |                             |                            |          |
| 2月3日（水）全員授業研究ふりかえりレポート〆切 アンケート集約。 |    |   |   |                             |                            |          |
| 2                                 | 12 | 金 | 7 | 14：00～15：00                 | 全体研修③「1年次のまとめ」             | 視聴覚室     |

生徒の課題を解決するための方法として、協同学習を取り入れた授業実践を検討する。

まずは、協同学習を行うのに、どのようなポイントがあるのか、「協同学習を成功させるポイント」（涌井, 2014）をもとに、研修を通して学ぶ。（6月5日 全体研修②）

次に、協同学習を取り入れた授業実践を行う。全員が授業を公開することにより、授業力の向上と、協同学習の実践情報の共有を図る。

## ② 全員授業研究について

7月13日から行われる、全員授業研究は様式を統一した略案（別紙1）を用いるものと、細案（別紙2）を用いるものがある。

誰が、どの授業を行うのかを、6月25日の研究日で学年に分かれ、可能な限り決める。その後、研修部で取りまとめ、授業公開日の一覧を作成する。

なお、略案方式と細案方式での授業研究の進め方は以下のとおりである。

### ・略案を用いた授業研究

・7月13日（月）～11月30日（月）を実施期間とする。実施期間内に、任意の授業で、任意の日に実施する。

- 1) 授業実施前日までに略案を作成し、データを今養ローカルの所定フォルダに入れる。
- 2) 授業者が略案を印刷し、職員室に配布する。
- 3) 最低各学年から1名ずつ、参観者を出す。
- 4) 授業参観後、参観者は、アンケートに答えて、授業者に渡す。
- 5) 「ふりかえりレポート」を作成する。

### ・細案を用いた校内授業研究

学年ごとに1本ずつ、細案を用いた校内授業研究を行う。

・12月を実施期間とする。実施期間内に、任意の授業で、任意の日に実施する。

- 1) 11月25日の研究日などを用いて、細案を作成し、データを今養ローカルの所定フォルダに入れる。作成締め切りは、授業公開日の3日前とする。
- 2) 授業者が細案を印刷し、職員室に配布する。
- 3) 授業終了後、放課後に協議会を行う。
- 4) 協議会の記録を研修部記録担当がまとめる。
- 5) 授業者は、協議会のあとに、指導案の「学習の評価」「授業の評価」「生徒の個別の評価」を記入し、今養ローカルに保存する。
- 6) 「ふりかえりレポート」を作成する。

- ・作業学習の指導案形式について

作業学習（農業科、産業科）に関しては、第6次研究で作成した指導案形式があるため、略案で行う場合は、その形式に「協同学習の項目」を追記したものを使用する。また、細案で行う場合は、他の授業と同様に、細案様式を用いて作成する。

- ・初任者の授業研究

初任者に関しては、1, 2月に初任者授業研究を行うことになる。そのため、課題研究に関わる授業実践としては、略案を用いた授業公開を行うこととする。

次ページに、略案と細案の指導案様式を添付した。

○学年 ○○「○○○○○○」指導略案

|         |                                                               |       |                          |
|---------|---------------------------------------------------------------|-------|--------------------------|
| 単元・題材名  |                                                               | 生 徒   | ○○科○年生徒○名                |
|         |                                                               | 場 所   | ○○科○年教室                  |
| 日 時     | 平成○年○月○○日 (○) ○校時                                             | 指 導 者 | T1 :      T2 :      T3 : |
| 単元の全体目標 | ○                                                             |       |                          |
| 本時の目標   | ○<br>○                                                        |       |                          |
| 協同学習の観点 | ①「互恵的な相互依存性」 ②「対面的なやりとり」 ③「個人の責任」<br>④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」 |       |                          |

協同学習の5つの要素について、どの要素を中心に展開に取り入れているのかを示してください。該当する番号に、下線を引き、太字にしてください。

| 過程<br>時間    | 学習活動      | 生徒の活動                                                                         |                                                                                                                       |                                                  |
|-------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 導入<br>(10分) | 挨拶        | ○ 代表者にあわせて挨拶をする。                                                              | ○ 代表者を募る。代表以外はあわせるように指示する。                                                                                            | ○プリント教材(これまでのもの)<br><br>○プリント<br>( <b>4</b> 1枚目) |
|             | 前時の復習     | ○ これまで学んだことを復習する。<br>・いくら払えばいいか計算の練習<br>・昼の弁当を買う問題<br>・マクドナルドを買う問題            | ○ プリントを見返してもよいことを伝え、発言を促す。<br>・2つの教訓(財布をよく見る、一気に入らない)を中心に話を進める。                                                       |                                                  |
|             | 本時の学習     | ○ 今日の問題について知る。<br>・買物マナーとルールの勉強<br>・Aコープでご飯の材料買い出し<br>・お金を残すこと、食材が余る可能性も考えること | ○ 口頭で説明し、プリントを配る。<br>・説明ののちプリントを配布するが、机上が雑然としていたら整理を指示する。(前時までのプリントはしまう)                                              |                                                  |
| 展開<br>(20分) | 買物ルールとマナー | ○                                                                             | ※ 生徒と教師それぞれの動きがわかりやすいようにする。<br>※ 導入、展開、整理に分け、要する時間の目安を書く。<br>※ 「○」や「・」の位置を揃える。<br>※ 参加者が注目しやすいように、協同学習場面には、下線を引いて下さい。 |                                                  |
| 整理<br>(20分) | まとめ       | ○                                                                             |                                                                                                                       |                                                  |
|             | 次回予告      |                                                                               |                                                                                                                       |                                                  |
|             | 挨拶        |                                                                               |                                                                                                                       |                                                  |

○学年 ○○「○○○○○○」学習指導案

月 日 平成○年○月○日 (○)  
場 所 . . . . .  
時 間 ○○ : ○○ ~ ○○ : ○○  
対 象 ○学年  
指導者 T1 ○○○○  
T2 ○○○○

- 1 単元名 『 . . . . . 』
- 1 題材名 「 . . . . . 」

- 2 生徒の実態
  - ・生徒の発達の様子、障害の程度。
  - ・単元指導前の生徒の実態や課題。

項目 1 と 3 について。  
生単では単元を組むので、「単元名」に国語や数学などの教科なら「題材名」になることが多いだろう。作業なら、「題材名」だろう。取り組む授業によって、「単元名」か「題材名」かを選ぶことになる。

- 3 単元について
  - ・単元そのものの説明。この単元を学ぶことにより、生徒にどのような変容が期待されるのか。そのために、どのような内容を用意してするか。
  - ・そして、本時ではどういう目的で、どのような内容で、どこに注意して行うのか。

- 3 題材について

- 4 単元の全体目標
  - ・
  - ・
  - ・

5 指導計画

|         | 日 時                             | 学習内容                       | 目 標                                        | 使用教材                   |
|---------|---------------------------------|----------------------------|--------------------------------------------|------------------------|
| 1       | 平成 20 年<br>12 月 15 日 (月) 6 校時   | ・前単元の復習                    | ・支払い時における概算ができる。<br>・簡単な釣銭の計算ができる。         | 学習プリント 1 2<br>電卓       |
| 2       | 平成 20 年<br>12 月 18 日 (木) 3・4 校時 | ・簡単な買物の計画①                 | ・簡単な文章題を理解することができる。<br>・所持金で買える分の品物を選択できる。 | 学習プリント 3<br>電卓 マックメニュー |
| 3       | 平成 21 年<br>1 月 19 日 (月) 6 校時    | 展開上の配慮点、指導方法での工夫点<br>などを書く |                                            | 学習プリント 3<br>電卓 マックメニュー |
| 4<br>本時 | 平成 21 年<br>1 月 22 日 (木) 3・4 校時  | ・買物のルールとマナー<br>・簡単な買物の計画③  | ・計画的な買物の必要性がわかる。<br>・所持金、品物の種類、購入後の残金などを考  | 学習プリント 4<br>電卓 板書カード   |

|   |                                    |                                  |                                                                   |                               |
|---|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
|   | 時                                  |                                  | えた買物計画を立てることができる。                                                 |                               |
| 5 | 平成 21 年<br>1 月 29 日 (木) 3・4 校<br>時 | ・レシートの見方と帳簿のつけかた<br>・一ヶ月の生活費を知ろう | ・買物後のレシートを見て、小遣い帳に収入・支出・残高を適切に記入することができる。<br>・生活に必要な費目やおおよその費用がわか | 学習プリント 5 6<br>電卓 レシート<br>小遣い帳 |

注：いずれの帳簿にも、必要に応じて模擬貨幣を使用する場合もある。

6 本時の全体目標

- ・
- ・

これは例。  
単元指導計画などを参考に、本時の前後の計画をまとめ  
を書く。または別紙で単元指導計画を添付し、ここは省  
略してもよい。

今日の授業全体の目標・ねらいを考えて書く。  
2つ程度でしょう。

7 本時の展開

(1) 個別目標

|    |      |                                             |                                           |     |    |
|----|------|---------------------------------------------|-------------------------------------------|-----|----|
| 名前 | 単元目標 | 本活動に対する実態                                   | 本時の目標                                     | 手だて | 評価 |
| A  |      | 特に目標に対する<br>実態を肯定的に表<br>記する                 |                                           |     |    |
| B  |      |                                             | 今日の授業における、生徒の個々の目標<br>(「～～を理解することができる」とか) |     |    |
|    |      |                                             |                                           |     |    |
| C  |      | 校外に出すときはアルファベットにするが、<br>校内だけのときは普通に名前を書いて良い |                                           |     |    |

ここは空欄にしておく

本時の目標に対する指導の手立て

(2) 協同学習の観点

- ①「互恵的な相互依存性」 ②「対面的なやりとり」 ③「個人の責任」  
④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」

ここには、「協同学習」場面についての目的と方法について書く。

(3) 本時の展開

|              |      |                  |                                |       |
|--------------|------|------------------|--------------------------------|-------|
| 過程<br>時間     | 学習活動 | 生徒の活動            | 教師の活動                          | 教材・教具 |
| 導入<br>(10 分) | 挨拶   | ○ 代表者にあわせて挨拶をする。 | ○ 代表者を募る。代表以外はあわせる<br>ように指示する。 |       |

|             |                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                             |  |
|-------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|--|
|             | 前時の復習<br><br>本時の学習        | <ul style="list-style-type: none"><li>○ これまで学んだことを復習する。<ul style="list-style-type: none"><li>・いくら払えばいいか計算の練習</li><li>・昼の弁当を買う問題</li><li>・マクドナルドを買う問題</li></ul></li><li>○ 今日の問題について知る。<ul style="list-style-type: none"><li>・買物マナーとルールの勉強</li><li>・Aコープでご飯の材料買い出し</li><li>・お金を残すこと、食材が余る可能性も考えること</li></ul></li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>○ プリントを見返してもよいことを伝え、発言を促す。<ul style="list-style-type: none"><li>・2つの教訓（財布をよく見る、一気に使わない）を中心に話を進める。</li></ul></li><li>○ 口頭で説明し、プリントを配る。<ul style="list-style-type: none"><li>・説明ののちプリントを配布するが、机上が雑然としていたら整理を指示する。（前時までのプリントはしまう）</li></ul></li></ul> | ○プリント教材<br>(これまでのもの)<br><br>○プリント<br>(41枚目) |  |
| 展開<br>(20分) | 買物ルールとマナー                 | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                             |  |
| 整理<br>(20分) | まとめ<br><br>次回予告<br><br>挨拶 | ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <div>※ 生徒と教師それぞれの動きがわかりやすいようにする</div> <div>※ 導入、展開、整理に分け、要する時間の目安を書く</div> <div>※ 「○」や「・」の位置を揃える</div> <div>※協同学習のように、生徒同士または生徒と教師が、お互いに話したり、考えたりする場面には、下線を引いて下さい。</div>                                                                                                                 |                                             |  |

## 8 評価

## (1) 学習の評価

ア 本時の全体目標は達成された

イ 個別目標の評価は達成された

## (2) 授業の評価

| 観 点   |                               |   |   |   |   |
|-------|-------------------------------|---|---|---|---|
| 授業の設計 | ① 学習指導案に適切な内容が盛り込まれていたか。      |   |   |   |   |
|       | ② 目標・手立ては明確になっていたか。           |   |   |   |   |
|       | ③ 導入・展開・整理の流し方や、時間配分は適切であったか。 |   |   |   |   |
|       | ④ その他                         |   |   |   |   |
| 授業の展開 | ① 生徒の学習に取り組む姿は自ら学ぶものになっていたか。  |   |   |   |   |
|       | ② 全体・個別に対する働きかけは適切であったか。      |   |   |   |   |
|       | ③ TTのあり方（役割の明確、位置等）は適切であったか。  |   |   |   |   |
|       | ④ 教材・教具は適切であったか。              |   |   |   |   |
| 協同学習  | ① 「互恵的な相互依存性」                 | A | B | C | D |
|       | ② 「対面的なやりとり」                  | A | B | C | D |
|       | ③ 「個人の責任」                     | A | B | C | D |

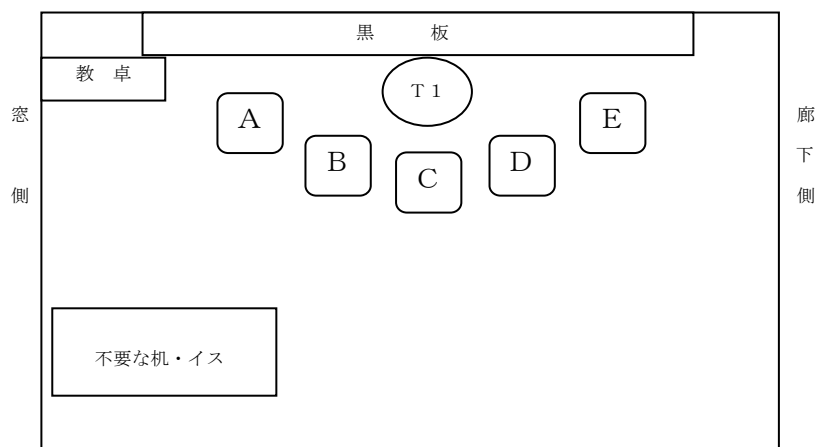
授業の設計①～④、授業の展開①～④について、すべての項目の評価を書くのではなく、授業者が必要に応じて項目を選択して評価を記入する。

協同学習の反省は、協同学習の要素をもとに、必要な部分を評価する。

|  |   |             |   |   |   |   |
|--|---|-------------|---|---|---|---|
|  | ④ | 「ソーシャルスキル」  | A | B | C | D |
|  | ⑤ | 「チームのふりかえり」 | A | B | C | D |

※A～よくできた B～おおむねできた C～少しだけできた D～十分ではない

## 9 配置図



## 10 資料

- ・ 本時の学習プリント
- ・ 単元指導計画

### ③ 協議会について

協議会については、昨年度は以下の様な流れで行われていた。

「授業者の反省」→「参観者からの質問や意見」→「授業者の回答」

この流れの場合、意見を得ることはできるが、以下の部分で検討すべき点があると考える。

- ・参観者は順番に意見を言うことになり、負担が大きい。
- ・意見を後に言う人ほど、言いにくい。
- ・意見の内容によっては、授業者を追い詰めかねない。
- ・意見を言っている人と授業者の1対1の応答になりがちである。
- ・多く意見を言う人ばかりに偏り、周りの人の空気が冷える。
- ・授業者は全ての質問に答えなければいけないなど、緊張感が大きい。
- ・言葉のみのやりとりになり、どのような話が出てきたのか把握しにくい。

授業者と参加者がお互いに当事者意識を持ち、自由に意見を言い合うことができる場を提供し、授業者自身が授業をふりかえり、考え続けることができる協議会にしていく。今年度は、以下のように協議会の流れを変更する。「効果10倍の〈学び〉の技法」（吉田新一郎・岩瀬直樹）で示されている「批判的な友だち」という方法をもとに行う。

1 まずは、授業者と参観者が会議室に集まる。

2 参観者が、授業を見て「わかりにくかった点」や「理解できなかった点」に対して、「この点についてはどうですか」など質問をする。

- ・悪かった点を指摘し始めるのではなく、あくまでも授業の中での不明確だった点を明らかにするための「質問」をしてもらう。
  - ・授業者は答えられるものだけに答える。答えられなかった質問は、受け止めて、自分で考えるようにする。
- 例)「どうしてグループで盛り上がっていたのに、活動をペアに戻したのですか？」  
「板書の色が全部白色だったのはどうしてですか？」

3 授業を見て「いい点」があれば、指摘をする。

- ・授業でよかった点を、些細なところも含めてできるだけたくさん指摘する。
- 例)「声ははっきりしていたよかったです。」  
「生徒の動かし方が上手です。」

4 授業を見て「悪いと思った点」を改善するための質問をする。

- ・改善したほうがよい点について質問をする。
- 例)「活動の目的を見える形で示すほうがいいのではないのでしょうか？」  
「板書の色をもっと使い分けるとどうでしょうか？」

5 授業者への「ラブレター。」

- ・これは授業者、参観者全員が行う。協議会のふりかえりの意味がある。ポストイットに、授業者へ「批判的に、しかし温かく」コメントを書く。書いたものを授業者に渡す。
- ・コメントが言いづらかった人にとっても、必ず、意見を授業者に伝えられる場面になる。

このようにすることで、

- ・参観者全員が授業者と対話することが可能になりなる。
- ・意見を絶対に言わないといけない緊張感が少ない。
- ・参観者が質問形式で言うことで、授業者に授業のふりかえりについて考える機会を与える。
- ・述べたい意見も、ポストイットに書くことで形として残り、授業者自身のふりかえりを行いやすくなる。

という効果が期待される。

#### ④ レポートについて

授業実施後、授業の実践のふりかえりを行う。ふりかえりをする目的は、「自己の授業を省みて、よい点と改善点を出し、改善策を考え、さらにより授業を行うため。」である。

参観者アンケートや協議会の内容、自分の反省をもとに、以下の内容でレポートを書く。

- ・協同学習を意識した授業実践を通して、よかったところ、改善すべきところ。
- ・改善するための方法。

レポートは、研究紀要の原稿としても扱い、全員で研究紀要を作る形で進める。記入例は、図3のとおりである。〆切を平成28年2月3日（水）とする。

# 【全員授業研究 ふりかえりレポート】(例)

参観者アンケートと、自分の実践をふりかえり、以下の観点をもとに、レポートを書いてください。〆切は、平成28年2月3日です。

① 協同学習を意識した授業実践を通して、よかったところ、改善すべきところ。

② 改善するための方法。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                   |     |           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----|-----------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 国語「たくさん書こう」       | 生徒  | 〇〇科〇年生徒〇名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                   | 場所  | 〇〇科〇年教室   |
| 日時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 平成〇年〇月〇〇日 (〇) 〇校時 | 授業者 | 今金 一郎     |
| <p>国語の時間に、ミニホワイトボードを用いてのペア活動は初めてであったが、とまどうことなく生徒は取り組んでくれた。ペアで、1枚のホワイトボードを用いながら、お互いに漢字を書いていくことで、ゲーム感覚で、たくさん漢字を書くことができたと思う。しかも、他のペアよりもたくさん書かなければいけないので、1人で取り組む以上に、モチベーションの維持にもつながったのではないかと考える。ペアにしたことで、「たくさん漢字を書く」という目的を達成するために、話をしながら書く様子も見られた。</p> <p>ただ、「たくさん漢字を書く」という目的は達成できたものの、ホワイトボードに漢字を書いたときに、「同じ漢字でもいいのか」「どのようにホワイトボードに書くのか」など、細かいルールを考えていなかったため、活動の最初に混乱が起こってしまった。その部分は、参加者のアンケートでも書かれていたとおりであり、活動状況で、もっと細かくルールの確定をしておく必要があった。これからは、授業づくりのときに、生徒が活動時に疑問に思うことを考え、活動がぶれないようにしていく。</p> <p>今後も、生徒同士が目的を共有し、お互いに同じ目的に向かって活動ができるように、ミニホワイトボードのペアワークを工夫していこうと思う。</p> |                   |     |           |

図3 全員授業研究 ふりかえりレポート

## ⑤ 課題研究 1 年次のまとめ

1 年間校内研究を行ってみて、思ったことをアンケートに書く。ふりかえりのレポートの内容と、アンケートの内容を研修部でまとめ、2 月の全体研修で発表する。

アンケートの内容は、図 4 ととおりである。

ペ切を平成 28 年 2 月 3 日（水）とする。

|                                       |
|---------------------------------------|
| ①全員授業研究やふりかえりレポートについて。取り組んでみていかがでしたか？ |
|                                       |
| ②協同学習について、学んだり、考えたり、取り組んでみていかがでしたか？   |
|                                       |
| ③ 1 年次の研究で改善すべき点があれば、ご記入ください。         |
|                                       |

図 4 校内研究アンケート

## 2 研究の実際

### （1）協同学習とは何か？についての共有

「協同学習とは何か？」ということを職員間で共有するために、教諭、実習助手を対象に、協同学習について説明を行った。具体的には、「互恵的な相互依存性」「対面的なやりとり」「個人の責任」「ソーシャルスキル」「チームのふりかえり」の 5 つの要素について、実際に簡単な活動を取り入れながら説明した。

一人一人が四分割された写真パーツを持つ。4 人そろえば 1 つの写真が完成する活動である。ただ、このとき、持っている写真パーツを相手に直接見せるのではなく、写真の特徴を説明するということを条件とした。つまり、必ず言葉を掛け合わないといけない状況にした。

お互いに「写真を完成させる」という目的（互恵的な



相互依存性)に向かって、言葉を掛け合う(対面的なやりとり)。言葉を掛け合うタイミングを見計らいながら進めていく(ソーシャルスキル)。一人でも欠けると写真が完成しないため、どの人も取り組まないといけない(個人の責任)。最後に、写真を完成させた4人組で取り組んだ感想を交流するというものである(チームのふりかえり)。

その後、5つの要素について例えばどういう事例があるかを提示しつつ、説明をした。

協同学習という概念をクローズアップすると、大きな事を始めないといけないと身構えてしまう。例えば、「対面的なやりとり」では「グループで話し合う。教え合う。考えを交流する。」、「個人の責任」では「チーム内で与えられた仕事をこなす。」など、本校でも実際に取り組んでいる活動を事例として挙げ、「自分たちが今まで実践した中で、協同学習の要素がどれくらい含まれているか見直してみませんか。」というスタンスで、提案を進めた。

## (2) 全員授業研究

MTを担当する授業者全員が協同学習を取り入れた授業を行った。指導案には、協同学習の5つの要素について、どの部分を取り入れているのか予め示すようにして、本校ではどのような実践が行われているのかが分かるようにした。

全員授業研究は以下の日程で実施された。(表3)

表3 全員授業研究実施状況

| 番号 | 授業者   | 日時                                   | 学年 | 指導形態・教科(題材名)                  |
|----|-------|--------------------------------------|----|-------------------------------|
| 1  | 近藤    | 平成27年7月13日(月)<br>5、6校時(13:05~14:45)  | 1年 | 作業学習(農業科・洗浄ポット洗い)             |
| 2  | 渡邊    | 平成27年7月21日(火)<br>3、4校時(10:35~12:15)  | 3年 | 生活単元学習(現場実習)                  |
| 3  | 石田    | 平成27年8月19日(水)<br>5校時(13:05~13:55)    | 3年 | 数学(お金の計算・金額の大きな買い物)           |
| 4  | 住谷    | 平成27年9月15日(火)<br>5、6校時(13:05~14:45)  | 2年 | 体育(ソフトボール・ティーボールゲーム大会をしよう)    |
| 5  | 泉谷    | 平成27年9月29日(火)<br>5、6校時(13:05~14:45)  | 1年 | 美術(デザイン・モダンテクニックで「海」の中を表現しよう) |
| 6  | 小林    | 平成27年10月9日(金)<br>4校時(11:25~12:15)    | 2年 | 数学(時間の計算)                     |
| 7  | 山口    | 平成27年10月13日(火)<br>5、6校時(13:05~14:45) | 2年 | 体育(器械運動・跳び箱)                  |
| 8  | 田中    | 平成27年10月13日(火)<br>5、6校時(13:05~14:45) | 3年 | 作業学習(産業科・学校祭販売の生製品を作ろう)       |
| 9  | 小原    | 平成27年10月15日(木)<br>5、6校時(13:05~14:45) | 3年 | 作業学習(農業科・花壇撤去・カボチャ磨き)         |
| 10 | 後藤    | 平成27年10月20日(火)<br>5、6校時(13:05~14:45) | 3年 | 作業学習(生活家庭科・紙すき長形3号)           |
| 11 | 鈴木(貴) | 平成27年10月26日(月)<br>5、6校時(13:05~14:45) | 3年 | 体育(器械運動・マット運動)                |
| 12 | 高橋    | 平成27年10月27日(火)<br>2校時(9:45~10:35)    | 3年 | 国語(自分達の漢字を作る)                 |

|         |        |                                               |     |                                         |
|---------|--------|-----------------------------------------------|-----|-----------------------------------------|
| 13      | 工藤     | 平成 27 年 10 月 28 日 (水)<br>4 校時 (11:25～12:15)   | 1 年 | 数学 (時間の経過を計算する)                         |
| 14      | 能代     | 平成 27 年 10 月 28 日 (水)<br>5 校時 (13:05～13:55)   | 1 年 | 国語 (なりきり詩を書こう)                          |
| 15      | 村瀬     | 平成 27 年 10 月 28 日 (水)<br>5 校時 (13:05～13:55)   | 1 年 | 国語 (物語をつくってみよう 2)                       |
| 16      | 初山     | 平成 27 年 11 月 5 日 (木)<br>5、6 校時 (13:05～14:45)  | 2 年 | 作業学習 (産業科・学校祭販売の生製品を作ろう)                |
| 17      | 高山     | 平成 27 年 11 月 10 日 (火)<br>2 校時 (9:45～10:35)    | 1 年 | LHR (学級展示)                              |
| 18      | 鐘ヶ江    | 平成 27 年 11 月 11 日 (水)<br>7 校時 (14:45～15:35)   | 全員  | 音楽 (全校合唱)                               |
| 19      | 岩城     | 平成 27 年 11 月 24 日 (火)<br>5、6 校時 (13:05～14:45) | 1 年 | 学級生単 (大人って何だろう?)                        |
| 20      | 山田     | 平成 27 年 11 月 25 日 (水)<br>2 校時 (9:45～10:35)    | 2 年 | 国語 (本を読もう)                              |
| 21      | 鈴木 (絢) | 平成 27 年 11 月 25 日 (水)<br>6、7 校時 (13:55～15:35) | 3 年 | 学級生単 (掲示物を作ろう)                          |
| 22      | 佐々木    | 平成 27 年 11 月 30 日 (月)<br>3、4 校時 (10:35～12:15) | 2 年 | 作業学習 (生活家庭科・販売 (3 月) の製品作り「紙すき・ミニ封筒作り」) |
| 23      | 今野     | 平成 27 年 11 月 30 日 (月)<br>5、6 校時 (13:05～14:45) | 1 年 | 作業学習 (生活家庭科・他学科作業)                      |
| 細案<br>1 | 野呂     | 平成 27 年 12 月 2 日 (水)<br>2 校時 (9:45～10:35)     | 2 年 | 国語 (手紙を書こう)                             |
| 細案<br>2 | 阿部     | 平成 27 年 12 月 9 日 (水)<br>5 校時 (13:05～13:50)    | 3 年 | 数学 (時刻と時間)                              |
| 細案<br>3 | 石黒     | 平成 27 年 12 月 17 日 (木)<br>2～4 校時 (9:45～12:15)  | 1 年 | 作業学習 (産業科・カップ作り)                        |

以下、指導案 (略案・細案) とふりかえりレポートを掲載する。

1学年 農業科作業学習(他学科) 略案(6回目)

日時: 平成27年7月13日(月) 5~6校時

場所: 温室(作業場)、農場、教室

指導者: 近藤(MT)、岩城T、村瀬T、藤倉T

農業科指導の重点(平成27年度)・本時の重点ポイント(最重点◎、重点○)

|           |   |                                                                           |
|-----------|---|---------------------------------------------------------------------------|
| 本時の重点ポイント | ○ | (1) 自立に必要な基礎的学力や社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身に付ける。(知識・技術)                         |
|           | ○ | (2) 栽培から販売までの過程を学習することを通じ、やりがいや生きがいを見だし実践的な労働意欲を高める。(職業)                  |
|           | ○ | (3) 整理・整頓・清掃の生活習慣を身に付けるとともに、健康・安全に気を付ける。(心と体)                             |
|           | ◎ | (4) 姿勢の保持、集中力、持続力、集団行動などの基本的作業態度を身に付ける。(職業)                               |
|           | ○ | (5) 「作業強化日」「現場実習」を通して自己の課題を理解し、卒業後の職業自立に向けて自ら課題解決をしようと努力する姿勢を身に付ける。(自己内省) |
|           | ○ | (6) 様々な作業体験を通して自己の理解力を高め、卒業後の職業生活への見通しを持たせ、自立への興味・関心を持つ。(自己理解)            |
|           | ○ | (7) ホームルームや他教科との連携を図りながら、社会人として必要なコミュニケーションの取り方を身に付ける。(コミュニケーション)         |

本時の活動: 洗浄(ポット洗い)

本時の目標: 相手立場や状況を考えながら、意欲的に活動に取り組むことができる(4)

: 洗浄する意味を理解しながら取り組むことができる(2)

|         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 協同学習の観点 | ①「互恵的な相互依存性」②「対面的なやりとり」③「個人の責任」 |
|         | ④「ソーシャルスキル」⑤「チームの振り返り」          |

本時の展開

| 配時             | 指導内容                               | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 備考                                                         |   |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |
|----------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---|---|-----|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|
| 10分<br>(13:05) | ・集合<br>・本時の内容確認をプリント等を使用して、説明する    | ・班長の号令<br>・本時の作業内容の確認をする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <div>本時は基本的には、生徒同士の活動が主体。場面の切りかえや困り感が見られた時は適時指導していく。</div> |   |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |
| 80分<br>(13:15) | ・農業科作業の説明<br><br><u>・洗浄(ポット洗い)</u> | ・農業科作業の説明を、温室(ガラス室)、ハウス、農場の3カ所に分けて現場で説明していく。<br>温室グループ(A、C、E)<br>ハウスグループ(F、H)<br>農場グループ(D、G)<br><br>・洗浄(ポット洗い)の準備、体験、後片付けまでの一連の工程を、各ペアごとになって説明質問をしながら作業を進めていく。 <div><table><tr><td>G</td><td>N</td><td>C・F</td><td>M</td></tr><tr><td>H</td><td>I</td><td>A・E</td><td>L</td></tr><tr><td>B</td><td>J</td><td>D</td><td>K</td></tr></table></div> |                                                            | G | N | C・F | M | H | I | A・E | L | B | J | D | K |
| G              | N                                  | C・F                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                            | M |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |
| H              | I                                  | A・E                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | L                                                          |   |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |
| B              | J                                  | D                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | K                                                          |   |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |
| 10分<br>(14:35) | ・集合<br>・本時の振り返り(コメント)を聞き、まとめる      | ・班長の号令<br>・本時の振り返りコメントや反省を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 作業日誌は、帰りまでに提出                                              |   |   |     |   |   |   |     |   |   |   |   |   |

| 教師 | 評価の観点(本時の目標から)                                                   | 評価                  | 授業記録     |
|----|------------------------------------------------------------------|---------------------|----------|
|    | 相手立場や状況を考えながら、意欲的に活動に取り組むことができる(4)<br>洗浄する意味を理解しながら取り組むことができる(2) |                     |          |
|    | 個別指導目標&評価の観点                                                     | 評価                  | 生徒個別授業記録 |
| A  | ・指示や説明を正しく理解し、丁寧にに取り組むことができる。                                    |                     | 授業記録     |
|    | ・移動を素早く行うことができる。                                                 | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| B  | ・どんな仕事にも積極的に、最後まで取り組み続けることができる。                                  |                     | 授業記録     |
|    |                                                                  | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| C  | ・最後まで積極的に、丁寧な仕事を行うことができる。                                        |                     | 授業記録     |
|    |                                                                  | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| D  | ・見通しをもって、どの仕事に対しても意欲的に最後まで取り組み続ける事ができる。                          |                     | 授業記録     |
|    |                                                                  | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| E  | ・説明指示を正しく理解し、最後まで諦めずに丁寧にに取り組むことができる。                             |                     | 授業記録     |
|    |                                                                  | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| F  | ・状況を把握し、適切な判断ができる。                                               |                     | 授業記録     |
|    | ・手早く確実な仕事を行うことができる。                                              | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| G  | ・状況を把握し、適切な判断ができる。                                               |                     | 授業記録     |
|    | ・手早く確実な仕事を行うことができる。                                              | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |
| H  | ・最後まで集中し、正確な仕事を行うことができる。                                         |                     | 授業記録     |
|    |                                                                  | 評価の観点( 4 )<br>( 2 ) |          |

|   | 個別指導目標&評価の観点                       | 評価 | 生徒個別授業記録 |
|---|------------------------------------|----|----------|
| I | ・丁寧さと手早さの両面を意識し、正確に多くの作業を行うことができる。 |    | 授業記録     |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
|   | ( 2 )                              |    |          |
| J | ・元気よくあいさつ返事報告ができる。                 |    | 授業記録     |
|   | ・説明や指示をよく聞き、自分の役割や作業工程を覚えることができる。  |    |          |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
| K | ・元気よくあいさつ返事報告ができる。                 |    | 授業記録     |
|   | ・自分の作業に集中することができる。                 |    |          |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
| L | ・説明や指示をよく聞き、自分の役割や作業工程を覚えることができる。  |    | 授業記録     |
|   | ・作業の厳しさを受け入れ、素直に作業することができる。        |    |          |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
| M | ・自分の作業に集中することができる。                 |    | 授業記録     |
|   | ・正しい言葉遣いをするすることができる。               |    |          |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
| N | ・自分の課題を理解して、全力で作業に取り組むことができる。      |    | 授業記録     |
|   | ・手早く確実な仕事をするすることができる。              |    |          |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
|   |                                    |    | 授業記録     |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
|   | ( 2 )                              |    |          |
|   |                                    |    | 授業記録     |
|   | 評価の観点( 4 )                         |    |          |
|   | ( 2 )                              |    |          |

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

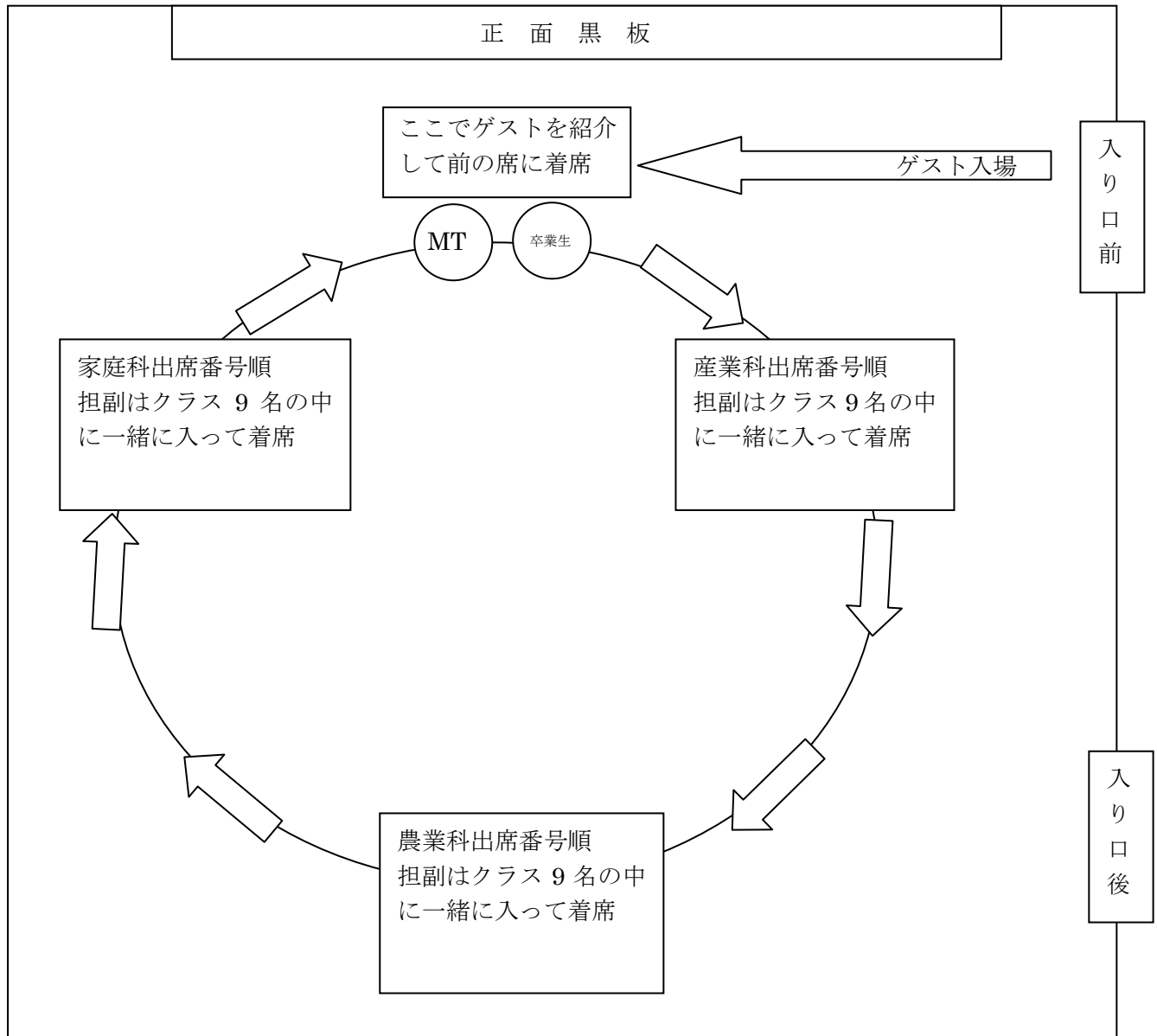
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                    |     |                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----|----------------------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 作業学習「洗浄（ポット洗い）」    | 生徒  | 農業科&生活家庭科1年<br>生徒14名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                    | 場所  | 温室（ガラス室）             |
| 日時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 平成27年7月13日（月）5～6校時 | 授業者 | 近藤 和也                |
| <p>農業科では、『先輩が後輩に教える伝える』という学習活動を取り入れている。これは、コミュニケーション能力の向上と、仕事に対する責任などをねらいとして行ってきた。今回はこれを同じ学年同士、一年生の他学科作業のなかで『他の学科の仲間に、自学科の作業を教える伝える』という学習活動で行った。協働をキーワードに、コミュニケーション能力の向上、仕事への理解度を上げることをねらいとした。</p> <p>まずは、教える側として必要なポイントを、事前の学習活動の中で考えさせ、シュミレーションさせて本番に臨んだ。教えられる側にも、教えられる側（学ぶ側）に必要なポイントを考えさせてから本番に臨んでいる。本番では、グループ分けを行い、事前にどの生徒同士で組むか確認していたので、グループ内で言葉遣いを意識しながらお互いに集中して取り組むことができていた。また、必要最低限の支援（言葉がけ）を心がけることで、生徒同士の中での確認作業の意識が高まった。</p> <p>今後は、より場面に応じた具体的な言葉の使い方をしっかりと理解させること。小グループではコミュニケーションを意識できるので、全体活動になったときにもできるように、場面設定を意図的に行っていくことが大切だと考えます。</p> |                    |     |                      |

### 3学年 生活単元学習「現場実習」学習指導略案

|             |                                                                                                             |     |       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------|
| 単 元 名       | 現場実習                                                                                                        |     |       |
| 題 材 名       | 先輩の経験から学ぶこと                                                                                                 | 生 徒 | 3学年全員 |
| 日 時         | 平成27年7月21日(火)3・4校時                                                                                          | 場 所 | 視聴覚室  |
| 単元目標        | 1 現場実習(前提実習)の意義や目的を理解し、必要な知識や態度を学ぶ。<br>2 実習を振り返り、課題と成果を明らかにし、今後の学習・生活に目標を持つ。<br>3 自らの将来を具体的に考え、積極的に学習に取り組む。 |     |       |
| 目 標         | ○ 社会人である先輩の話を聞いて、前提実習や卒後の生活に生かすことができる。<br>○ 仲間の意見を聞いて互いに認め合い、尊重することができる。                                    |     |       |
| 指 導 者       | MT：渡邊 ST：鈴木貴・鈴木絢・後藤・石田・高橋                                                                                   |     |       |
| 協同学習の<br>観点 | ①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」<br>④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「チームのふりかえり」                             |     |       |

| 学 習 内 容      | 学 習 活 動                                                                                                                                                      | 教材・教具                     | 留 意 点                                                                                                                                          |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 集合<br>あいさつ | ・家庭科の日直あいさつとゲスト紹介                                                                                                                                            |                           | ・仕事の合間を縫って来ていただいていることを感じさせる。(感謝の念)                                                                                                             |
| 2 本時の説明      | ・ <u>授業の流れを説明後、意見交換のアドバイスをする。</u><br>①卒業生を囲んで相談会<br>②ワークシート記入<br>③交流<br>(5分)                                                                                 |                           | ・賞賛・うなずき・同調などアドバイザーが話しやすい環境を作れるようにそれぞれが気を払えるよう支援する                                                                                             |
| 3 話し合い       | ・卒業生を囲んで、自己紹介を兼ねながら質問していく。<br>①卒業生から自己紹介<br>② <u>農業科・家庭科・産業科の順で出席番号順に自己紹介+質問1つ</u><br>(40分)                                                                  | 模造紙<br><br>学習帳 P20        | ※ファシリテーターは渡邊がします<br><br>①在籍時の学科、名前、現在の仕事<br>②学科・名前・趣味と前提実習に関わることや卒後の職業生活・私生活に関わる質問を1つする。<br>※話し合いの内容を鈴木絢 T に模造紙に記入してもらう。<br>※書くことが苦手な生徒に対する支援。 |
| 4 振り返り       | 《休憩5分》<br>・振り返りのワークシートを記入する。<br>① <u>卒業生の話を聞いての感想</u> (7分)<br>②話を聞いて自分にはまだ足りないと感じたこと (8分)<br>③ <u>席をシャッフルして、他の人が書いていた内容で「なるほど」と参考になったものを2つ書き留める</u><br>(10分) | 学習帳(P21)<br>模造紙<br>マジック赤青 | ・シャッフルの仕方については、その場で指示し興味を持った意見2名分を選択するよう伝える。                                                                                                   |
| 5 交流         | ・ <u>話を聞いての感想、自分にはまだ足りないと感じたこと、他の人の意見で参考になったことを何人かの生徒に発表してもらう</u> (15分)                                                                                      | 学習帳(P21)                  | 机間巡視をしたときに、良い気づきをした生徒を選択し、発表させる。<br>→出た意見、考えを否定せず尊重する指導(拍手・うなずき・同調等)                                                                           |
| 6 最後の一言とお礼   | ・卒業生に後輩達に向けてありがたい言葉をもらう。<br>・生徒からお礼の挨拶をさせる<br>(全員でありがとうございました)                                                                                               |                           | ※それぞれ持つ悩みや課題に気づきながらも、実習で闘うのは場所が違えども一人ではないことを知る。また全員で内定を勝ち取ろうとする雰囲気を作り出す。                                                                       |
| 7 あいさつ       | ・家庭科日直挨拶 (5分)<br>・片付け (5分)                                                                                                                                   |                           |                                                                                                                                                |

## 会場図(視聴覚室)



※ 担副の丸いすを各教室から運ばせる。

※ 7/17(金)に宿題にしていた学習帳を回収し、質問にかぶりがいいかをチェックする。

→ 担任集約後、放課後に打合せをさせて下さい。7/17(金)の職会后

※ 全員分質問を用意はするが、時間を見て質問数をコントロールする。

→ あらかじめいい質問をピックアップしておいてそこだけは逃さず進める。

※ 先生方にも質問をしてもらうかもしれませんので、タイムリーな質問をして下さい。

※ 机は使わないのでファイルを使って記入する(姿勢等のサポート・指示をする)

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                     |       |         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------|---------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 現場実習                | 生 徒   | 3年生徒27名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                     | 場 所   | 視聴覚室    |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 平成27年7月21日(火) 3・4校時 | 授 業 者 | 渡邊 雅都   |
| <p>前提実習を約1ヶ月後に控えた3年生の生徒を対象に、現場実習（前提実習）の意義や目的を理解し、必要な知識や態度を学ぶことや自らの将来を具体的に考え、学習で得た知識を今後の生活に生かすことを目的に今回の授業を設定した。授業のはじめにゲストから自分のこれからに生かすことのできる知識を上手く聞き出すためには、話し手の気持ちを上手くのせる必要があることを伝え、そのために27名にできることは何かを確認しました。その中で「相づちを打ちながら話を聞く」「共感する」「人の意見を否定しない」など意見交流を成功させるためのソーシャルスキルの確認できたことでより深まりのある学習をすることができた。ゲストの気持ちに乗ってきたことにより「グループホームでの生活」や「お金の使い方」「ストレスの解消法」など27名が卒業した後すぐに活用できるスキルを聞き出すことができていた。</p> <p>改善点として、意見交換で見えてきたキーワードやセンテンスを使っていくつかのグループに分けて協同学習の違う観点を狙ったグループワークをやってみても面白かったと思う。またこれは協同学習の改善点とっていいのかよくわからないが、家庭科の生徒もしくは福祉的就労をする生徒と一般就労する生徒では理解力に差があるので、一斉授業ではカバーしきれない部分が出てきてしまう。その部分をSTと協力して能力がそれほど高くない生徒にどう支援して良いのか具体的な事例があれば紹介してほしい。</p> |                     |       |         |

### 3 学年 数学「お金の計算・金額の大きなお買い物」学習指導略案

|         |                                                                                                            |       |                                |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------|
| 単元・題材名  | 「お金の計算」・「金額の大きな買い物」                                                                                        | 生 徒   | 産業科 3 年生徒 6 名<br>農業科 3 年生徒 1 名 |
|         |                                                                                                            | 場 所   | 産業科 3 年教室                      |
| 日 時     | 平成 27 年 8 月 19 日（水）5 校時                                                                                    | 指 導 者 | T1：石田 浩子                       |
| 単元の全体目標 | ○ お金の計算ができる                                                                                                |       |                                |
| 本時の目標   | ○ 予算を考えながら買い物の計画を立て、予算内に収めることができる。<br>○ 電卓を使ってお金の計算を正確にできる。                                                |       |                                |
| 協同学習の観点 | ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」<br>④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」 |       |                                |

| 過程<br>時間                               | 学習活動                          | 生徒の活動                                                                                                                                                    | 教師の活動                                                                                                                                                                                         | 教材・教具                                                                |
|----------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>13:05<br>(05<br>分)               | 挨拶<br><br>前学期の復習<br><br>本時の学習 | ○ 産業科の日直（いなければ農業科）が挨拶をする。<br>○ 夏休みの宿題の確認<br>・掛け算、割り算、お金の計算<br>・面積、体積、時刻<br><br>○ 今日の学習について知る。<br>・一人暮らしにかかる予算を知る<br>・一人暮らしに必要なものを考える<br>・予算の中で買い物の計画を立てる | ○ 日直の確認をする。<br><br>○ 時刻の問題以外は、1 学期取り組んだ内容だったことを伝え、1 番難しかった問題を確認する。<br>・宿題は先生の方で丸つけをし、次回の数学で返却することを伝える。<br><br>○ 今日の学習について説明する。<br>・前提実習を控える中で、将来もし一人暮らしをすることになったら、どのくらいの予算がかかるのか考えてみることを確認する。 |                                                                      |
| 展開<br>13:10<br>－<br>13:30<br>(20<br>分) | チラシと間取り<br>を見ながら計画<br>を立てる    | ○ チラシを見ながら、一人暮らしに必要なものを選びワークシートに記入する。<br>・金額を記入する際は、税込か税抜きかを確認し、税抜きの場合は電卓で消費税 8%を計算して金額を出す。                                                              | ○ ワークシート①を配る。<br>・ワークシートの記入の仕方を例にそって説明する。<br>・生徒の活動時間は 20 分間で行う。<br>・35 万円を上限とすることを伝える。<br>・電卓での消費税の計算の仕方を確認する。                                                                               | ○ ワークシート①<br>(両面 1 枚)<br>○ 商品掲載チラシ<br>・電化製品<br>・家具製品<br>・百円均一<br>・電卓 |
| 13:30<br>－<br>13:40<br>(10<br>分)       | <u>小グループに分かれ、協同学習を行う。</u>     | <u>○ 小グループに分かれ協同学習を行う。</u><br>・机の向き等グループワーク用に変える。<br>○ グループ討論を行う。<br>・それぞれグループ内で、自分が買ったものの商品名のみ発表する。発表者以外は発表者の意見を聞いて、自分も必要と感じたものについてワークシートに記入する。         | ○ グループに体制を変える。<br>○ 協同的学習の仕方を説明する。<br>・ワークシート②を配り、グループで順番を決め、商品面のみに順に発表していくことを伝える。自分も必要と感じたものについては、ワークシート②に記入することを伝える。<br>フレーム 1：必ず全員発表すること<br>フレーム 2：人の意見の批判をしないこと<br>フレーム 3：人の意見を取り入れる      | ○ ワークシート②<br>(片面 A 4 半)                                              |
| 整理<br>13:40<br>－<br>13:50<br>(10<br>分) | まとめ<br><br>次回予告<br><br>挨拶     | ○ グループの意見を聞いた結果を受け、自分の考えをまとめて最終的な合計金額を出す。<br>・机は戻さずそのままで行う。<br>○ ワークシート①②を回収する。<br>・次回は実習から帰ってきた後、時間の学習に入ることを確認する。<br><br>○ はじめの挨拶をした生徒が挨拶する。            | ○ 自分の考えをまとめて、最終的な合計金額を出すことを伝える。<br>・必要なものを書き足したり、チラシを見直す。<br>○ ワークシート①②を回収する。<br>・名前記入を確認する。<br>・次回の学習について伝える。<br><br>○ 挨拶をして授業を終了する。                                                         |                                                                      |

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                          |     |                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----|------------------------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 数学「お金の計算」<br>「金額の大きな買い物」 | 生徒  | 産業科3年生徒6名<br>農業科3年生徒1名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                          | 場所  | 産業科3年教室                |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 平成27年8月19日（水）5校時         | 授業者 | 石田 浩子                  |
| <p>本グループの数学の学習ではこれまでに、ペア学習としてお互いの学習したプリントを取り替えて、答え合わせを行うという学習を行ってきた。ペアで答え合わせを行うことによって、お互いに間違えた答えを教えあったり考えたりすることをねらいとしていたが、答え合わせの要素を強く感じ、より学習の時間内にグループ学習を効果的に取り入れることができないかと考え、本授業を計画した。生徒は、これまでの学習とは違ったスタイルに戸惑っていたが、自分が考える生活に必要な物をグループの仲間に伝えながら、仲間の意見を取り入れて学習することができていた。</p> <p>反省すべき点は、学習に対して十分な時間が足りておらず、グループ討論の場が充実しなかったことである。事前の学習で生徒が考える時間が足りず、グループ討論が充実するだけの考えを揃えることができなかった。また、生徒同士のコミュニケーションが上手くいかない場面も多々あった。これまでに行ったペア学習では答え合わせが主となっており、コミュニケーション力の向上に繋がっていないことが、本時のグループ学習を行うことによって分かった。今後は、学習を通したコミュニケーション力の向上と、十分な言語活動を行えるだけの考えを生徒が充実させられるように指導したい。</p> |                          |     |                        |

## 2 学年 保健体育「ソフトボール」指導略案

|         |                                                                                                   |       |                                   |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 単元・題材名  | 「ティーボールゲーム大会をしよう」                                                                                 | 生 徒   | 2 年 生徒 2 4 名                      |
|         |                                                                                                   | 場 所   | グラウンド 雨天時：体育館                     |
| 日 時     | 平成 27 年 9 月 15 日（火）5、6 校時                                                                         | 指 導 者 | T1：住谷 T2：山口<br>T3：佐々木 T4：小林 T5：金子 |
| 単元の全体目標 | ○ 道具の正しい使い方を理解する。                                                                                 |       |                                   |
| 本時の目標   | ○ ティーボールゲームのルールを理解し、試合を行う。<br>○ 勝利という目標に向かって仲間と協力する。                                              |       |                                   |
| 協同学習の観点 | ①「互恵的な相互依存性」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「 <u>個人の責任</u> 」<br>④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「 <u>チームのふりかえり</u> 」 |       |                                   |

[illegible]

|           |                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                             |                       |
|-----------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
|           |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ティーボールゲーム</u>をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム一丸で勝利を目指す。</li> <li>・ルールを理解して試合に参加する。</li> </ul> </li> <li>○ <u>試合内容をチームで振り返る。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打順の順番に試合の感想、チームの良かったところ、悪かったところなど、一人一言発表する。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 怪我をしないように最善の注意を払う。</li> <li>・住谷→審判、金子、山口、佐々木、小林、生徒掌握。</li> <li>○ 自分の意見を発表するのが難しい生徒がいる場合は、問いかけるなどの支援をする。</li> </ul> | ○ ティースタンド、ボール、バット、ベース |
| 整理<br>15分 | <p>まとめ</p> <p>次回予告</p> <p>挨拶</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 試合の総評を聞く。</li> <li>○ 次回の学習内容を知る。</li> <li>○ 体育の号令に合わせて挨拶をする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 試合結果、各チームの良かったところを伝える。</li> <li>○ 次回の学習内容を伝える。</li> <li>○ 体育委員に挨拶の依頼をする。</li> </ul>                                |                       |

#### ☆ティーボールゲームのルール☆

- ・試合は5イニングもしくは、14：25まで行う。
- ・1チーム12人とする。
- ・守備位置は、投手（ピッチャー）以外の場所に守る。捕手（キャッチャー）も守る。
- ・スリーアウト交代制とする。
- ・ボールに当たらない、ティースタンドを打つなどの行為はストライクとする。ツーストライク後にこの行為を行った場合はアウトとする。
- ・盗塁、スライディングはなしとする。行った場合は、アウトとする。
- ・打った後にバットを投げ捨てた場合は、アウトとする。
- ・バントはなしにする。

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                     |     |          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-----|----------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 体育「ティーボールゲームをしよう」   | 生徒  | 2年 生徒23名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                     | 場所  | グラウンド    |
| 日時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 平成27年9月15日(火) 5、6校時 | 授業者 | 住谷 亮     |
| <p>ソフトボールの単元で初めて試合を行いました。ルールの伝え方や理解度に課題がありましたが、協同学習の技法を実践しやすい題材だったので、生徒が自発的に取り組むことができました。チームごとに分かれて勝利という一つの目的に向かって作戦を立てたり、話し合ったりすることができました。試合中は、味方のチームを応援する場面が多く見られ、チームプレーの意識も向上していきました。</p> <p>試合後には、一人ずつ発言する機会を設定し、試合の感想や自分の気持ちをチームメイトの前で全員発表することができました。</p> <p>また、単元を通して、キャッチボール相手の長所を学習ノートに記入することを毎時間終了後に取り組みました。対面的なやりとりが机上だけではなく運動を通して行うことができました。</p> <p>改善点としては、ST との事前の打ち合わせの時間を十分にとり、細かい指導まで共通理解のもと行うことと試合のルールを理解するのに工夫が必要だったことです。</p> |                     |     |          |

## 1学年 美術「デザイン」指導略案

|         |                                                                                          |     |                   |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------|
| 単元・題材名  | デザイン・モダンテクニックで「海」の中を表現しよう                                                                | 生徒  | 産業科8名・農業科8名       |
|         |                                                                                          | 場所  | 美術室               |
| 日時      | 平成27年9月29日(火)5・6校時                                                                       | 指導者 | T1:泉谷 T2:石黒 T3:今野 |
| 単元の全体目標 | ○ モダンテクニックで表現することができる                                                                    |     |                   |
| 本時の目標   | ○ 話し合い、協力してイメージした作品を作ることができる。                                                            |     |                   |
| 協同学習の観点 | ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「対面的なやりとり」 ③「 <u>個人の責任</u> 」<br>④「 <u>ソーシャルスキル</u> 」 ⑤「チームのふりかえり」 |     |                   |

| 過程<br>時間     | 学習活動                                                              | 生徒の活動                                                                                                                                                          | 教師の活動                                                                                                                                                                                | 教材・教具<br>留意点                                                                        |
|--------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>(15 分) | 挨拶<br><br>授業の目標<br><br>前時の復習<br><br>本時の学習                         | ○ 産業科の日直の号令にあわせて挨拶をする。<br><br>○ 授業の目標を決める<br><br>○ 前時までの活動学習内容を復習する。<br>・ローラーを使って<br>・ストローを使って<br>・ぼかし網を使って<br><br>○ 本時の学習内容を知る。<br>・三つの道具を使って、海の中を表現する        | ○ 姿勢を正して全員が前を向いたら日直に指示する。<br><br>○ 今日の学習内容を簡潔に知らせ、目標を決めさせる。<br><br>○ 3種類の作品を見せて使用した道具を答えさせる。<br><br>○ 本時の学習内容を説明する。<br>・課題は、三つの道具を使って、海の中を表現することを説明する<br>・ストーリー性を持たせ、ニモをどこかに必ず入れること。 | ○ワークシート<br><br>○前時までの作品<br>○ローラー<br>○ストロー<br>○ぼかし網<br>○ワークシート<br>○手の使用も可とする         |
| 展開<br>(65 分) | <u>話し合い</u><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><u>絵の作成をする</u> | ○ <u>テーマを決める</u><br>○ <u>ストーリーを考える</u><br>○ <u>担当(道具・ストーリーの中の担当)を決める</u><br>○ <u>構成を考える</u><br><br>○ 担当の画用紙に色を塗る<br>・B4画用紙4枚を4人で <u>分担</u> して<br>三つの道具を使って表現する | ○ テーマを決めさせる<br>○ ストーリーを考えさせる<br>○ 担当(道具・ストーリーの中の担当)を決めさせる<br>○ 構成を考えさせる<br><br>○ 担当の画用紙に色を塗らせる                                                                                       | ○ワークシート<br>○話をすすめるリーダーを決めさせる<br>○イメージをふくらませるために<br>黒板にニモや海のなかの写真を掲示する<br>○はさみ用意→今野T |
| 整理<br>(20 分) | 片付け<br>感想書き<br>作品説明<br><br>次回予告<br><br>挨拶                         | ○ 道具・パレット・筆等を洗う<br>○ 授業の感想をワークシートに書く<br>○ 工夫した点をそれぞれがグループごとに発表する。<br><br>○ 次回で完成させる<br><br>○ 農業科の日直の号令にあわせて挨拶をする。                                              | ○ 道具・パレット・筆等を洗わせる<br>○ 授業の感想をワークシートに書かせる<br>○ 工夫した点をそれぞれにグループごとに発表させる<br><br>○ 次回で完成させることを伝える<br>○ 農業科の日直の号令にあわせて挨拶をさせる。                                                             | ・流しが混んだら廊下の流しを使わせる                                                                  |

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                   |       |                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------|--------------------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 美術「デザイン・モダンテクニックで<br>「海」の中を表現しよう」 | 生徒    | 産業科 8 名<br>農業科 8 名 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                   | 場 所   | 美術室                |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 平成 27 年 9 月 29 日（火）5.6 校時         | 授 業 者 | 泉谷 好子              |
| <p>美術で「協力」をやるには、共同作品をやるしかないと考えました。</p> <p>丁度 1 年生は、不安定になると教室を出る生徒もいたので、責任を持たせることで、授業に参加できるように「しくみ」、取り組みました。</p> <p>内容も美術が嫌いという生徒対策とコミュニケーション力を高めるために「偶然の効果」をねらって、誰でもがうまくできる課題にしました。話し合いの仕方もリーダーを中心に話し合いの仕方をレクチャーしてから授業をした結果、積極的に取り組み、それぞれの担当を責任をもって仕上げることができました。授業の中で追加の指示を出す時に全員の手を止めさせて、指示を出すという基本的なところを校長先生に指摘してもらい、改めて初心に返ることができて私にとって良い授業研になりました。</p> |                                   |       |                    |

## 2 学年 数学「時計と暦」指導略案

|         |                                                                                 |       |             |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------|
| 単元・題材名  | 時間の計算                                                                           | 生 徒   | 2 年生徒 7 名   |
|         |                                                                                 | 場 所   | 美術室         |
| 日 時     | 平成 2 7 年 1 0 月 9 日（金） 4 校時                                                      | 指 導 者 | T1：小林 T2：山口 |
| 単元の全体目標 | ○ 時間の計算（足し算・引き算）ができる。                                                           |       |             |
| 本時の目標   | ○ テレビ番組表から時刻を読み取り、放送時間を計算することができる。<br>○ 仲間とルールに沿った話し合いができる。                     |       |             |
| 協同学習の観点 | ①「 <u>互恵的な相互依存性</u> 」 ②「 <u>対面的なやりとり</u> 」 ③「個人の責任」<br>④「ソーシャルスキル」 ⑤「チームのふりかえり」 |       |             |

| 過程<br>時間     | 学習活動                            | 生徒の活動                                                                                                                                                                                                                                                               | 教師の活動                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教材・教具                                              |
|--------------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 導入<br>(10 分) | 挨拶<br>本時の学習 1<br>(頭の体操)         | ○ 号令担当にあわせて挨拶をする。<br>○ 数字パズルに取り組む。<br>○ 数字パズルを採点する。                                                                                                                                                                                                                 | ○ 今日の担当は誰かを問いかける。<br>○ 時間を計り、完了者へ時間を知らせ、記入させる。<br>○ 生徒主体の採点を促し、答えの読み上げをさせる。                                                                                                                                                                                             | ○プリント教材                                            |
| 展開<br>(30 分) | 前時の復習<br><br>本時の学習 2<br>(時間の計算) | ○ これまで学んだことを復習する。<br>・時間の計算（筆算）<br><br>○ 今日の問題について知る。<br>・テレビ番組表を用いた時間の計算<br>・仲間と相談して録画番組を決定<br>○ 2 グループに分かれる(3 人ずつ)。<br>○ 録画したい番組を 2 つ選ぶ。<br>・10 月 9 日といえば、この番組<br>・時間を計算する。<br><br>○ <u>グループで録画番組を決定する</u><br>・ <u>全員が自分のプリントを見て説明</u><br>・ <u>互いに番組を検討し、決定する</u> | ○ 筆算を板書して、計算方法を確認させる。<br>○ 必要に応じて、前時のプリントをみさせる。<br><br>○ プリントを見させて、問題とルールを説明する。<br><br>○ いつものグループへ移動を促す。<br>○ 番組表を配布し、ルールに沿った番組を選択し、記入させる。<br>○ 放送時間を計算させて、記入させる。<br>・終了時刻と開始時刻の引き算<br>・必要に応じて番組表の見方や計算方法の助言を行う<br><br>○ 問題のルールを再確認する。<br>○ 選んだ理由を伝え合い、放送時間と共に検討材料にさせる。 | ○板書<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>○テレビ番組表 |
| 整理<br>(10 分) | まとめ<br><br>次回予告<br><br>挨拶       | ○ 各グループから発表する。<br>①録画番組 ②合計時間<br>③話し合いで気をつけたところ<br><br>○ 時間の計算を継続することを知る。<br><br>○ 号令担当にあわせて挨拶をする。                                                                                                                                                                  | ○ 各グループから発表させる。<br>○ 講評をする。<br>・グループ活動や個人の発言など<br><br>○ 時間の計算の継続を伝える。<br><br>○ 号令を呼びかける。                                                                                                                                                                                | ○板書<br>・②と③                                        |

## 【全員授業研究 ふりかえりレポート】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                  |       |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------|----------------|
| 単元・題材名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 数学「時間の計算」        | 生 徒   | 2年生徒7名（欠席あり4名） |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                  | 場 所   | 美術室            |
| 日 時                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 平成27年10月8日（金）4校時 | 授 業 者 | 小林 和幸          |
| <p>暴風対策のため、1週間スライドし、かつ3名欠席となった4名体制での授業となった。そのため、2グループの予定を急遽1グループで行った。グループ間での進め方の違いや意識や生徒の意見や考えの発言量が想定していたものとは異なったが、1グループでの活動は出席していた生徒のいつもとは違う積極的な発言も見られた。論理的思考を養うことと考えること、発言することを基本とした授業を行うことを生徒にも話しているため、生徒は自分の考えをいつも発言している。今回も同様に自ら考えた部分を発言していた。</p> <p>しかし、開始時刻の遅れと前時の復習に予定よりも時間を要してしまい、計画とずれが発生した。1時間で終了させる内容にしていたため、終了させることに意識しすぎてしまった。生徒の考えを自ら発言して欲しい部分では、答えを早急に求めてしまい、誘導するような問いかけをしてしまった。また、生徒だけで対面的なやり取りが活発になりそうな生徒同士が協力して答えを導き出す部分にも必要以上に言葉がけをしてしまった。</p> <p>今後の授業では、生徒同士のやり取りや生徒の考えを適切に導き出せるように状況に応じた時間の調整や柔軟性を意識した指導を行う。</p> |                  |       |                |